

## 2月18日実施状況報告

2月18日、LHR時に道德の授業が実施されました。

今年度最後の授業ということで、独自教材の活用を含め、各クラスが独自の取組を進めていたことが印象的でした。

各クラスから提出された報告をもとに、今回の実施状況について報告します。

### M1

映像教材 「志村けんに学ぶ」  
(独自教材)

ねらいを大きく二つ設定した。

前半は、一流の監督たちが、上手になる条件として「あいさつと整理・整頓」を挙げていることから、今の自分を見つめさせ、改善させたいという思いからこの内容を取り上げた。

後半、こちらがメインとなるが、志村けんの下積み時代の努力、そして今もなお夢を追いかける気力、それは、その職業に対する「本気」と「努力」の大切さを学び、自分のこれからは活かしてほしいと期待し、この内容に設定した。

視覚的観点からの指導が率直に伝わるだろうと考え、パワーポイントでの展開を行った。

笑う場面もあったが、集中して取り組んでおり、学習シートに関して、自分をその状況に置き換えて考えることができていた。これらを通し、今後の生き方の糧にしてほしいと期待する。

### E1

読み物教材 「あるレジ打ちの女性」  
(『明日への扉Ⅱ』)

ワークシートをベースに展開した。

導入時に、「レジ打ち」の仕事について発問した時に、「面倒な仕事」という意見で、掘り下げると、「お金を扱うので、何かあったら嫌だ」という考えを持つ生徒もいたが、大半は、「簡単そう」、「単に面倒くさい」という意見が多かった。

その後、今日の教材を担当が朗読した。クラスの雰囲気は真面目に聞いている状況だった。

生徒の中には、アルバイト中にお客さんに、「ありがとう」と言われ嬉しかったことを思い出した子もおり、「仕事ならば、自分の得意なことに置き換えて行うことが大切であると思った」、「何でも簡単にやめず続ければ、良いこともあり大切なことだと思った」、「考え方を変わると、自分や周りを変えられることができると思った」、「つらいことも、その中から楽しいことを見つけて取り組んでみたい」等、今後の高校生活でも、今回の内容を基に実践したいという意見も出た。



### I1

読み物教材 「亡き母へのトランペット」  
(『明日への扉Ⅱ』)

平成23年3月11日の東日本大震災で、母、祖父母、親戚を亡くした高校2年生の女子生徒が、母の好きだった曲を東京フィルハーモニー交響楽団と演奏し、人々に深い感銘を与えた実話を扱った。

一人ひとりが真剣に取り組む、どんな困難や苦労があろうとも、くじけず前向きに生きることの大切さ、音楽が人の心を癒し、励ます力を持つ素晴らしさ、そして、周りの人達…家族や友人、その他、自分を支えてくれる人たちへの感謝を再認識し、命の大切さ、尊さを改めて深くかみしめる貴重な機会となった。



### P1

映像教材 「支える人になりたい」  
(H25 映像教材)

生徒は集中して道德の授業に取り組んでいた。個々の将来について考える良い機会となった。

中には、まだどんな職につきたいかわからない生徒も数名いたが、今日の映像教材により、「人の役に立ちたい」という意識が芽生えた生徒が多く見られた。

今後の進路決定に十分につなげていきたい。

## 平成27年度取組について

今年度は、平成26年度制作の『明日への扉Ⅱ』と、平成25年度制作の映像教材2種類を中心に授業展開がなされました。

そのため、「明日への扉Ⅰ」及び平成23年度制作映像教材「青春のホイール」を活用する時間が十分に取れませんでした。

教材の収集という点では、NHK Eテレの「道德ドキュメント」の映像教材は、十分に活用が可能です。この番組のホームページにはワークシートも準備されており、映像を映す準備ができれば、手軽に授業を行うことが可能です。

また、千葉県高等学校教育研究会生徒指導部会の『High School Life 21』の中にも道德で活用できる教材が数多くあります。

今後は、『明日への扉』の2種類に限らず、生徒の道德性を高められる教材選びを進めていくことが必要と思います。

今年度の最後には、1クラスではありましたが、独自教材での授業展開が実現しました。今後もこの流れを継続していくことが、東総工業高等学校全体での道德教育にとっても大きな財産になることでしょうか。

最後に、実生活で生徒が判断を迫られる場面を想定した、「モラルジレンマ」教材については、教材集めを十分に進めることができませんでした。他県の実践や研究書を参考にしながら、一つでも多く指導案をストックすることが平成28年度以降の課題の一つになることと思います。

今年度新たに道德通信を発行し、取組の状況等をお知らせしてきました。

この取組により、授業実践の把握、4つの視点に基づいた授業展開の工夫を意識しながら、年間指導計画どおりに進めることができたと思います。

きちんと記録を残すことで、本校の取組の質的な向上につながっていければと考えています。

(文責 崎山)